

# 校舎移転に伴う『体育』授業実践報告

—運動量の確保と授業の効率化を求めて—

保健体育科 川崎 繁次・本間 和裕・野村いずみ

平成17年12月に本校の校舎改修および増築計画が発表された。長年にわたり要望してきたことがいよいよ実現されることとなったわけである。現校舎を全て解体しての全面新築工事ではないものの、大規模な全面改修が行われ、あわせて1階から3階におよぶ教室棟6室の新築工事、体育館の大規模全面改修工事が施工される運びとなった。

学校機能のあり方について検討の結果、平和町キャンパスを離れて金沢大学旧工学部校舎への移転が決定した。ここでは、約8ヶ月に及ぶ工事期間中の『体育授業』の取り組みについて報告する。

キーワード：施設 設備 運動量 効率

## 1 はじめに

工事の方法として、以下の3ケースが考えられた。

### ケース1

平和町キャンパスを離れて、短期間に校舎改修、増築工事を行う。(工期：約8ヶ月)

### ケース2

増築した校舎を使用し、そこを拠点にして仮移転を繰り返し、既設校舎を3期に分けて改修する。

(工期：約20ヶ月)

### ケース3

工事期間中、グラウンドにプレハブ仮設校舎を建設して仮校舎に使用し、増改修等を一気にこなす。

(工期：約13ヶ月)

また、それぞれの方法による教育への影響については以下のとおりである。

### ケース1

『仮移転先が小立野キャンパスの場合グラウンドが使用できるため、屋外体育授業への影響はない。また、体育館はないが、記念館を代替施設として使用

することにより、屋内体育授業への影響を小さくできる。』

### ケース2

『居ながら施工のため、工期中(20ヶ月)の工事騒音・振動などにより、カリキュラムの進捗に支障をきたすおそれがある。また、体育館の改修工事期間(4ヶ月)は使用できないため、屋内体育授業に支障がある。』

### ケース3

『工期中(13ヶ月)仮設校舎が必要なため、グラウンドの大部分が使用できず、屋外体育授業への制約が大きい。また、体育館の改修工事期間(4ヶ月)は使用できないため、屋内体育授業に支障がある。』

以上3ケースを検討した結果、ケース2では工期も長く、何と云っても騒音振動の問題が大きいこと、ケース3では体育授業および部活動に及ぼす影響が大きく円滑な教育活動に支障をきたすと考えられた。以上のように改修パターンとしてはケース1の学校機能を仮移転することがベストであるという結論に達したわけである。ここで本校にとっての追い風となったのが、金沢大学工学部(小立野キャン

バス)の角間キャンパスへの移転に目途がついたということである。工学部の跡地を偶然ではあるが活用できる幸運に恵まれたのである。



(工事中の平和町校舎)

平和町キャンパスと小立野キャンパスとは、金沢市中心部を流れる犀川を挟んだ寺町台地と小立野台地に位置しており、距離にして約3kmである。金沢駅からのバスでの所要時間についても約30分位でどちらも同じような時間である。

## 2 移転および工事期間

移転については平成18年8月から平成19年3月の予定で引越しおよび工事が着工されることになった。

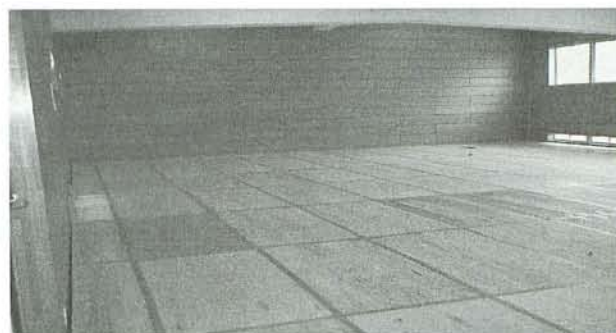


(廃棄物置場となった駐車場)

格技場は平成13年に改修工事が終了しており、今回の改修の対象にはならなかったので格技場と平成6年設置のプレハブの調理室を物置として使用して必要最少限のものを仮校舎に移動させることにした。格技場にはシートを敷きその上にベニヤ板の厚

いものを敷き詰め、フローアと畳を保護する措置がとられた。

その後、8月1日・2日の2日間にわたって平和町校舎から小立野校舎への引越しが行なわれた。

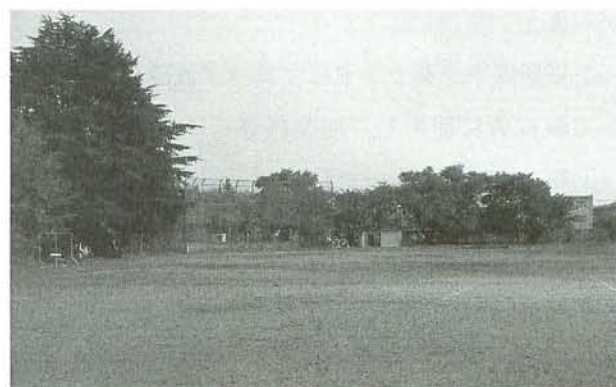


(武道場：畳保護のベニヤ)

## 3 施設設備について

旧工学部校舎の施設設備については以下のとおりである。普通教室については、平和町校舎より広く、職員室、図書館などもさすがに大学の施設だけあり充実している。広大なキャンパスの中で、高校はその一部を借用することになるわけであるが、十分な教育環境である。普通教科の学習活動については何ら問題ないと思われる。

ここでは、体育施設関係に絞ってみていくことにする。まずはグラウンド、縦70m、横100mで野球のバックネットも完備している。ソフトボールならば、対角でコートをとれば2面の使用が可能であり十分な広さである。



(小立野キャンパスグラウンド)

その他、テニスコートは3面あったが、2月下旬に下見に行った時の状態でもかなり荒れていて使用

に際してはかなりの整備が予想された。屋内施設としての『体育館』は無いものの縦25m、横16mの面積を持つ記念館（講堂）がある。バドミントンコート約3面半の広さである。ただし天井の高さは約4mで球技を行なうには高さが低い。以上の体育施設をもとに平成18年度の体育年間指導計画を立てることになった。

引越は8月上旬であるから、1学期の授業については例年と同じ内容で実施することができるわけであり、2学期・3学期の授業内容について検討する必要があった。

本校では9月に教育実習を実施しており、毎年80名を超える実習生を金沢大学および他大学から受け入れている。今年度は総勢81名で、内21名が体育科の実習生である。9月における『体育』の実施種目は、1年生男子サッカー・女子バレーボール、武道ダンス（柔道・剣道・ダンス）、2年生男子テニス・女子器械体操（マット&平均台）、3年生男子サッカー・女子テニスである。



（記念館2階 講堂スペース）

グラウンドが広いので、サッカーについては晴れの日には問題なく授業ができる。ただし現有施設では雨天時に対応することが不可能であった。器械体操についても記念館において実施可能である。テニスコートは2月下旬の状態でもかなり荒れた状態であると前述したが、5月の連休あとには雑草が伸びてもはや人力では手の施しようも無い状態となっていた。



（テニスコートの状態）

バレーボールについては記念館の天井が低いために実施不可能な状態であり、ソフトバレーボールが限界である。柔道については畳を平和町から持ち込んでの授業も考えてはみたものの、コンクリート製の床の上では衝撃が強く、安全面について問題がある。以上の状況を考慮すると生徒に対して十分な授業を行い、合わせて教育実習生に対する指導を充実させるためにも体育館を近隣に借用することが急務であるという結論に達した。

近隣の体育施設を考えた場合、市営体育館や県営体育館を授業時間帯すべてにわたり借用する事は不可能である。したがって、金沢大学の施設を利用させていただくのが最善の策と考えられた。金沢大学角間体育館は大学の授業が行なわれるのでやはり無理があった。移動距離と高校生の授業時間帯に使用可能な施設を検討の結果、医学部鶴間キャンパス体育館が最も適しているという結論に達した。医学部体育館までの距離は約1kmで徒歩約20分の距離である。

以上のような理由から、引越しも間近な6月中旬附属学校園事務部を通して医学部事務部へ体育館借用のお願いをしていただくことになった。医学部キャンパス内においてはもちろん通常の授業が展開されているが、体育館の使用に関しては放課後のサークル活動による使用であるので、午前8時30分から午後3時30分の時間帯については使用可能ということで、高校生の授業における使用許可をいただくこ

とができた。

体育館の規模であるが、26m×14mのバスケットボールコートが2面、またはバドミントンコートが6面使用可能であり、2階には63畳の柔道場がある。平和町の従来の体育館と比較しても、よりゆとりのある施設である。

さて、残された問題は徒歩20分の移動距離についてであった。

#### 4 バス移動

本校の授業時間は50分であり、各時間間における休み時間は基本的に10分間である。ただし、2限と3限の間だけは15分間の休みとなっている。徒歩20分の道のりを雨の日や雪の日に15分間の休み時間で40名が移動して、50分間の授業に臨むという事はどう考えても無理である。この条件に対応する為には「バス移動」が必要不可欠である事は明らかであった。

「バス移動」とは言うものの、本校としてのスクールバスのようなものは無く、大学本部のバスにしても高校で約半年間にわたって、ほぼ1日中使用するという事も不可能であった。そこで授業時間の組み方や、休み時間を考慮しながらバス会社との交渉に入る準備を開始した。

まず「体育」の授業時間数については、本校では1年生で週に3時間（武道・ダンス1時間を含む）、2年生で2時間、3年生で3時間である。例えば2時間続きの授業にすれば、移動時間でのロスがあっても活動時間をある程度は確保できる。しかし、移動の必要がない晴天の日や教育実習中の授業の持ち方、および生徒の疲労度などを考えると必ずしもメリットばかりとは言い切れなかった。何よりも「体育」が週に1回（2時間続きではあるものの）という事になる為に生徒の運動意欲を十分に発散させる事が困難であると考えられた。また、授業時間割の全面改訂作業などにも相当な時間と労力が必要であ

る。

以上の観点から時間割はそのまま、休み時間を10分間から15分間に延長した日課表を作成して、2学期以降の「体育」をスタートする事とした。

日課表 (旧)		(新)	
S T	8:35～	S T	8:35～
1 限	8:45～ 9:35	1 限	8:45～ 9:35
2 限	9:45～10:35	2 限	9:50～10:40
3 限	10:50～11:40	3 限	10:55～11:45
4 限	11:50～12:40	4 限	12:00～12:50
昼	12:40～13:25	昼	12:50～13:30
5 限	13:25～14:15	5 限	13:30～14:20
6 限	14:25～15:15	6 限	14:35～15:25
7 限	15:25～16:15	7 限	15:40～16:30

すべての休み時間を5分間延長するといっても従来より2限目と3限目の間は15分間であったので、実際は6限目までの間で3回の延長という事になり、15分間長くなる事になる。そこで昼休みを5分間だけ短縮して40分間にして従来の日課表より6限実施日で10分間の終了時間延長になるように計画した。ただし、休みを15分間としても移動にかかる時間は授業終了からバス乗車までに3階の遠いクラスからは最低でも5～6分間は必要であり、バス移動には約5分間を要する。分単位で40人が移動するという厳しい状況には変わりが無かった。



(バスによる移動)

時間的にギリギリ、あるいは若干の時間超過は予想されるものの、教育実習および生徒の「体育授業」を保障する為にも学校全体でこの半年間を乗り切る

事が必要であった。

バスでの移動について、学校の前から路線バスはあるものの、このような状況下での路線バスの利用は不可能な選択である。バス1台（大型：50人乗り）を1日借り上げる必要があった。

数社に見積りをいただき、半年間に渡りほぼ毎日の運行契約である事などを考慮いただいた上で金沢市内の某バス会社さんをお願いする事ができた。

体育館、移動手段は確保できたので次は我々教師と生徒の問題である。まず、生徒への連絡・指導として以下の4点を説明した。

- 1：バスでの移動に関して、高校出発時刻を授業終了5分後を目標とする。
- 2：着替えは移動後に体育館にて行なうこと。
- 3：内履き、外履きの区別をしっかりとすること。

（工学部校舎においては内履き、外履きの区別は無い）

- 4：自転車での移動は厳禁とする。万一バスに乗り遅れた場合は欠時とするが、そのような場合においても自転車、徒歩での移動は禁止する。

（交通事故等の防止の為であり、バス借り上げの意味を生徒に再確認させた）

次に教員側として、各教科の先生に体育の前の授業については、極力時間延長の無いようにして、生徒がすみやかに移動できるようにお願いした。我々体育科の教員としては、使用用具のバスへの積み込み、各時限毎の生徒確認と次時の生徒のバスへの誘導および、医学部体育館正門でのバス誘導が必要であった。鶴間キャンパス周辺は道路が狭く大型バスは道幅いっぱいを使って運行するために、事故の無いようにとの配慮である。

バスでの移動の実際の様子は次の通りである。

- 1：高校から生徒を乗せて体育館に移動（約5分間）。
- 2：生徒を降ろしたバスは高校に戻り待機。（医学部駐車場は狭いので高校での待機）

3：授業終了5分前に体育館に空のバス移動。

4：体育が終了して更衣をすませた生徒が乗車。

5：高校到着後、次の時間の生徒と入れ替え。

6：体育館へ出発。

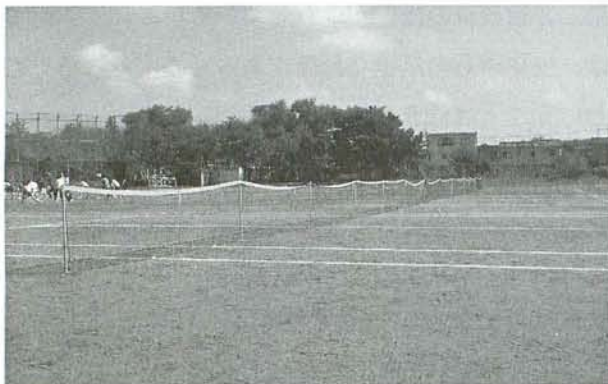
高校に引き返したバスに次の時間の生徒を乗せて体育館に移動し、体育の終了した生徒と交代して高校に移動する方がバスの移動回数が少なくなるが、体育を終了した生徒が、とにかく次の授業に遅れる事の無いようにする為には上の移動方法がベストであった。バスの運転手さんには御苦勞をお掛けする事になったが15分間の休み時間内で何とか体育の授業と普通教科の授業が進行している。これについては、生徒諸君の迅速な行動があつての上での結果だということは言うまでも無い。

## 5 グランド設備への対応

前述のとおり、グラウンドはかなり広いので晴れの日には外で体育の授業を行なうには問題はなかった。最大の問題はテニスコートが使用不可能な状態であったという事である。9月の教育実習期間中には3年生女子が週に9時間、2年生男子が週に6時間の合計15時間のテニスの授業がある。すべてを体育館で行なうには、広さの問題や生徒の運動に対する欲求不満なども考えられた。

そこで、体育科内では何とかテニスコートをグラウンドに作る事ができないかという意見が上がり、具体的に準備計画を進めることになった。まずグラウンドの状況については、粘土質の土壌でわりと硬いためにテニスボールのはね返りについては問題がなかった。次に、防球フェンスやネットおよび支柱の問題を解決しなければならなかった。約1ヶ月のために、グラウンドにテニスコートの支柱を立てる工事など不可能であり、放課後には野球部の練習やサッカー部の練習が行なわれるので、コートは撤収できるものでなければならない。移動式防球フェンスの価格を調べてみると2メートル位の物でも約2万5

千円で、3コート作るとなればそれだけでも50万円位はかかってしまう計算だった。そのとき目に入ったのがあるメーカーの仮設グランドフェンスであった。幅20m高さ90cmのネット製で、杭を打ち込みネットを掛けるものであった。値段は定価約6万円。これを防球フェンスとしてではなく、テニスコートのネットに代用すれば問題は一度に解決できたのである。もちろん、防球フェンスとしての使用もでき、たんでしまえば片付けにも場所を取らない。引越しが終了した後の夏季休業中を利用して、テニスコートを3コート造成することにした。



(特設テニスコート：3コート)

放課後には野球部やサッカー部の部活動があるのでラインが消えた時の事を考えて、コート造成にあたってはホームセンターで小さいペグを購入して、ビニールテープを巻いたマーカーを作り、コートのポイントとした。雨の後にラインが消えてしまっても短時間でコート造りが可能である。杭を打ち込む作業は慣れるまで大変であったが、多額の費用をかけることなくテニスコートが3コート完成した。

バックネット側にテニスコート3面、その隣でサッカーの簡易コートを作って3年生男女の体育実技がスタートした。サッカーコートについては、駐車場側へのボールの飛び出しを防ぐ防球ネットが無いのでコートを若干斜めにとることによって安全を確保した。土が粘土質で雨の後のグランドは滑ることもあり体育館へ移動したこともあったが、十分な運動量を確保できたと思う。しかし、ここでの問題は



(テニスの授業風景)



(サッカーの授業風景)

晴ればグランド、雨天ならば体育館とした時のバスの配車計画である。バス会社にしても当然配車予定というものがあるので、キャンセルを入れたものの、当日朝になって1台お願いしても対応できないこともある。しかし、バスの契約は1日ごとの計算なので、全く使用しない日(晴れですべての体育がグランドで実施できる日)に駐車場にバスを止めておくのも経費の無駄になる。

9月において晴れば1日中グランドで体育を実施できる曜日というのは月曜日であった。9月4日(月)、11日(月)、18日(祝)25日(月)の4回で授業日は3回だった。そのうち4日(月)と25日(月)は前日の天気予報をもとにバスをキャンセルした。11日(月)は雨上がりで、サッカーコートが滑るのでバスで移動したクラスとグランドでテニスを行なったクラスがあった。また22日(金)も天気が良く、午後の1年生のバレーボールの授業が学校行事のためになくなったので前日にバスのキャンセ

ルを入れた。以上3回ではあるが天気予報によってバスのキャンセルを行なった。3回とはいうものの、10万円を超える金額である。このときほど天気予報を真剣に聞いたことはない。また、天気予報というものが非常に有益な情報であるということを実感した次第である。

10月からの種目は1年生はバスケットボールと武道・ダンス、2年生はバスケットボール、3年生はバスケットボールとバドミントンを男女で時期をわけて実施した。つまり、ダンスを除いた全ての体育がバスで移動しての体育館での実施である。9月のような天候による悩みは無くなったが毎時間のバス移動はさらに大変であった。しかし、トラブルもなくスムーズに授業が展開されており、関係各位には心から感謝している。

## 6 今後の予定

バスによる移動での体育は2学期いっぱいを用意している。3学期になれば北陸の地においては降雪が予想され、バスでの移動時間の増加や高校周辺および鶴間キャンパス体育館周辺の道路が非常に狭いことなどから、大型バスの進入に際しても問題が予想されるためである。



(柔道の授業風景)

ただし、1年生の武道（柔道・剣道）に関しては毎週火曜日の合計8回、バス移動を継続する予定である。

3学期は高校の記念館において、卓球とパドルテ



(剣道の授業風景)

ニスと計画している。卓球台は5台設置可能である。同時にバドミントンコートが2面設置可能なので、それを利用してパドルテニスを行なう予定である。パドルテニスのコートとしては若干狭く、周囲の余裕も少ないが冬場の種目としては適当なのではないかと思う。本校では以前から雨天時の体育館におけるテニスの授業において、硬式テニスのボールではなくパドルテニスのボールを使用している。ボールが軽くソフトでありコントロールもしやすいので生徒にも好評であった。今回は体育館よりも更に狭い環境での実技となるのでパドルテニス専用のラケットを購入して実施することになっている。ストローク練習やボレーなどの技術はそのままテニスにもつながると思うので、夏場に向けての練習にもなると考えている。

## 7 まとめ

8月上旬に平和町キャンパスから小立野キャンパスに移転してすでに4ヶ月が過ぎようとしている。生徒も教員も環境が大きく変わった中で、まさに手探り状態でのスタートであった。荷物の整理をして、教室、職員室を整備して猛暑の中での補習授業、9月の教育実習では81名に及ぶ実習生の受け入れ、大型バスを借り切って、移動しての体育授業とすべてが初めての経験の連続であった。また、10月には第59回開校記念祭を開催し、伝統の歌舞伎公演も59回生の総力を結集して見事に成功させた。

今回の校舎移転によって不自由な思いも多々あったことではあろうが、生徒および教職員のつながりは高まったのではないかと思う。現状に不平不満を並べるのではなく、障害を乗り越えていく過程の中にこそ真の成長があるのではないかと思う。

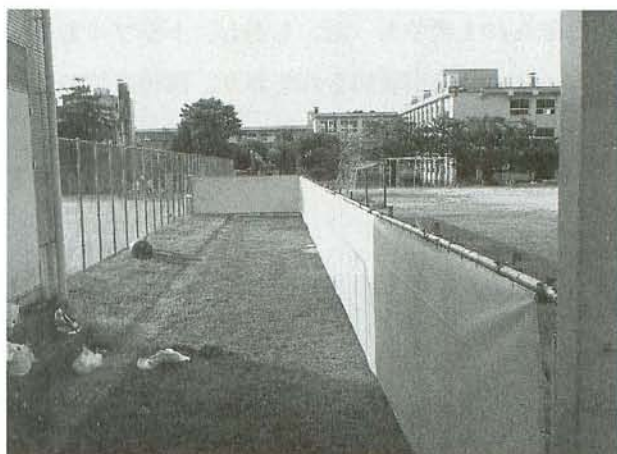
生徒諸君には、小立野キャンパスでの授業や部活動、学校行事などのすべてが、目には見えない多くの人々によって支えられているということを肝に銘じていただきたい。今回のこれらの経験が卒業して何年か経った時に、素晴らしい思い出として残っているように願わずにはられない。



(記念館での2学期始業式)



(小立野キャンパスから金沢市内方向を望む)



(平和町キャンパステニスコートは部活動で使用)



(鶴間キャンパス体育館)



(小立野キャンパス管理棟正面)